

令和5年度 園芸特産業関係功労者表彰 受賞者功績概要

1 伊藤 良夫（上田市）

直売事業を通じた地域農業発展のため、昭和61年丸子町農産物直売会結成に尽力、その後も生産者・関係機関と一体となって研究、平成16年上田市丸子農産物直売加工センター運営組合長となり「あさつゆ」をオープン。

農家の多品目栽培化等による耕作放棄地拡大を低減させ、園芸作物生産振興への貢献度が高く、県内他産地の直売所運営の支援などの地域発展に御尽力された。

2 信州諏訪農業協同組合野菜専門委員会セルリー専門部会 百瀬勝彦部会長（茅野市）

諏訪地域産のセルリーは、生産量が全国一であり夏場の国内産セルリーの9割を占める。

昭和44年「セルリー標準技術策定委員会」設置以降、当専門部会はセルリーの栽培技術の向上と生産強化に御尽力された。

出荷期間長期化、育苗技術確立、かん水技術確立、難防除病害虫の克服、窒素成分削減による環境保全型農業の推進、育種開発など多岐にわたる長野県セルリーの生産振興に大きく貢献された。

3 増澤 武雄（箕輪町）

平成9年以降25年以上にわたり、「長野県茶の共進会」審査と併せて先進的な茶栽培・加工技術の指導により生産農家や指導者の育成を図る。

茶園の施肥や整枝による園地の更新など栽培技術とともに茶工場の製茶に係る加工技術の向上に御尽力された。

現在に続く「長野県茶の栽培指針」編さんに携わり栽培技術確立など本県茶産業の発展に貢献された。

4 中山東花園 菅谷信代表（松本市）

平成25年より当集団の農地1haや施設を有効活用するため、JA松本ハイランド青年部松本南支部のメンバーを中心に地元の地域資源を維持継承し、農作業体験など都市農村交流を継続実施された。

親子農業体験教室を継続的に開催することにより新たなメンバー加入、園芸品目栽培を開始する者の増加や遊休農地の解消など、他地域の模範となる地域発展に寄与された。